

次世代の森づくりを担う 人材育成事業



「里山の四季」ステージII

福島県小野町



事業概要

近年、当地域においても里山と関わる機会の減少により、森林環境の荒廃が進んでいる。そのため、本事業では、里山に親しんでもらうことを目的とし、年間を通じた体験事業「里山の四季」を実施する。主な活動は以下のとおり。① 植樹・育樹、②木材の玉切り・薪割り、③親子木工教室、④ 山菜やキノコの採取等。

事業成果

今年度は、子どもたちよりも熟年世代の参加が多く見られ、それもまた良い傾向であったと感じている。自分たちも歳を重ねることで新たな視点が開け、これまでとは異なる

気づきや経験を得ることができた。そうした思いや経験が参加者にも伝わったことで、一定の成果につながったものとする。

事業をよく知る関係者の声

- ・現在では一般の人が山に入る機会は少ないため、本事業は里山にふれる貴重な機会を提供している。(雑木伐採搬出の業者)

参加者の声

- ・学校や地域行事では行えない活動なので、余程のことがない限り毎回参加した。(子ども連れの保護者)



山菜の収穫 (里山の四季：春)



ブルーベリーへの追肥 (里山の四季：夏)



キノコの採集 (里山の四季：秋)



木工教室・ガーデンベンチ製作 (里山の四季：冬)

実績とりまとめ

作業内容

- 植付面積：1.0ha
- 植付本数：65本
- 樹勢回復：45本
- 下刈面積：4.0ha
- 間伐面積：1.0ha
- イベント(里山の四季)：5回

参加者数

計：194人

樹種

サクラ、ドウダンツツジ

多様な主体と進める富士山の森づくり

静岡県富士市



事業概要

静岡森林管理署との協定により、自生種から育成した苗木を用いて富士山のヒノキ人工林を広葉樹林に復元することが目的である。併せて、森林や自然環境の仕組みについて学ぶ機会を提供する。主な活動は、①広葉樹林への遷移を進めるための適応的保育管理（協定林 4.65ha）、②学生の実習を兼ねた、自生母樹から種子採取～苗を育成して補植（年間20～40樹種）、③他団体・企業・一般参加者の参加を促し、普及啓発と人的交流の活性化を図る。

事業成果

季節に応じた活動を基本としつつ、豪雨後の保全作業など自然環境の変化や当日の天候に応じて柔軟に対応している。また、参加するボランティアや学生と相談しながら、共に学び合う活動として実施している。

事業をよく知る関係者の声

- 山の自然学クラブで設定した活動日に参加する形をとっているが、会社のスケジュールを考慮した活動計画を立てているため、組合員の希望に応じて参加できるようになっていてありがたい。家族で参加するリピーターがあるなど、充実した活動になっている。会社内でさらに理解を深めて継続的に参加したい。（継続的に活動に参加している組合の担当者）

参加者の声

- 先輩方が続けてきた活動がどのようなものか関心があった。社会人のボランティアと一緒に活動できて有意義だった。（参加した学生ボランティア）
- 学生をいつも暖かく迎え入れてもらってありがたい。社会人と交流ができ、貴重な経験になっている。（協力して活動する東京農業大学教員）



種子の採取



採取した種子の調整作業



育成して持参した苗を現地で仮植えする様子



種子から育成した広葉樹を補植

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha

植付本数：300本

下刈面積：0.7ha

その他：樹木講座、種子採取・調整、苗木育成

参加者数

県内：24人

県外：145人

計：169人

樹種

種子から育成した広葉樹苗
19種

人工林の生物多様性保全活動のモデル化

千葉県山武市



事業概要

管理が行き届いていない人工林の課題解決を目的として、生物多様性に着目した環境改善手法をモデル化する。そこで、生物多様性への関心を高める啓発活動として、四季を通じて一般市民が森林保全活動に参加するとともに、生物多様性に関する専門家の指導を取り入れ、主に以下の活動を実施する。①水生生物調査及び在来生物の保護活動、②人工林及び植樹苗木の管理、③環境教育活動の推進等。

事業成果

トウキョウサンショウウオの成体を確認し、在来種の保全及び水域環境の改善に成果が見られた。また、森林整備や植樹、小・中学生への木育教育を実施した。さらに、都内中高生18名に対し、地元森林組合と連携して間伐の選木及び体験学習を提供した。県内外の一般市民延べ217名がボランティアとして森林保全活動に参加し、多くの参加を通じて森林保全意識の啓発につながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・日向の森の動植物調査の実施や山武市への情報共有・提案等に感謝している。本活動が市民に広く認知・関心を高めるため、誰でも気軽に参加できるオープンデー等の機会の設定が望まれる。(NPO法人元気森守隊)
- ・中長期的な目標設定やゾーニング、成果の見える化を進めることで、活動の質と持続性、地域への波及効果の向上が期待される。(自然調査員)

参加者の声

- ・森を守るために草刈りや間伐、外来種捕獲作業など地道で根気がある作業ということが、ボランティアに参加して初めて分かった。(大学3年男性)
- ・山武市のサンプスギに興味を持った。企業としてこの銘木を守るためにできることを会社に提案したい。(会社員50代男性)
- ・伐倒時の地響きがすごかった。(中学2年女子)



親子で植樹



下草刈り



中高生へ間伐の必要性をレクチャー



生物調査

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
 植付本数：185本
 下刈面積：0.13ha
 除伐面積：0.01ha
 間伐面積：0.01ha
 その他：生物調査、人工林内の環境改善、林道整備ほか

参加者数

県内：72人
 県外：141人
 計：213人

樹種

イロハモミジ、コナラ、ガマズミ、アブラチャン、クスノキほか

木を伐り、使い、植える、未来の森づくり その2

東京都檜原村



事業概要

森林資源の伐採・加工・利用及び植樹・管理の一連の体験を通じて、森林・林業への関心を高め、継続的な関わりを促すことを目的とし、以下を実施する。①苗木の下刈り・つる切り、防獣ネットの点検、②ツリーハウス床張り・防腐塗装・柱建て、③作業道の整備、④薪割り、薪を利用した飯ごう炊さん、⑤森の素材を使った香料や色素の抽出実験、⑥玉切り体験、⑦木工クラフト、⑧檜原de写真俳句、⑨フジの森に棲む野生動物の生態解説。

事業成果

参加者は、苗木が獣害を受けることを知り、防獣ネットの役割や木を植え育てる難しさを現場で理解した。また、製材品を用いたツリーハウスづくり等を通じて林業や木材活用を実感するとともに、森や木材の多様な魅力を学ぶプログラムも好評であった。今後も林業や森林への関心を高め、継続的に関わることのできるプログラムを開発したい。

事業をよく知る関係者の声

・参加者の人気プログラムは、様々な道具を使っての薪割りだった。ツリーハウスづくりでは、当初は思いどおりにいかない場面もあったが、回を重ねることで技術が向上し、達成感を得ることができた。周到な準備と指導で事故もなく、進めることができたことに感謝する。今後は、参加者ごとの関心や希望の違いに対応できる柔軟なプログラム構成にし、より参加意欲を高められる内容としたい。(教員 40代)

参加者の声

・下刈りでは、なぜこんな急なところに苗木を植えたのだろうか、と思ったが、過去のまとめポスターを見ると日当たりを考えないといけないからだと分かった。(高校生)

・檜原村の木を大切に、未来につなげるところが一番印象に残った。木は60年かけて育て伐るというサイクルの繰り返りで、長年手入れして過去からつながってきたと実感できた。(高校生)



急斜面での下刈り



作業道の整備



チェーンソーで玉切り体験



ツリーハウスの土台等の防腐剤の塗装

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：0.2ha
作業道：30m
その他：ツリーハウス、薪で飯ごう炊さんほか

参加者数

都内：201人
計：201人

里山・森林ボランティア入門講座

東京都青梅市、奥多摩町、京都府亀岡市、兵庫県宍粟市、香川県さぬき市、丸亀市、まんのう町、徳島県三好市ほか



事業概要

体験から一歩進んで、森林ボランティア活動に継続して関わる若き担い手を育てることを目的とする。主な活動は、東京、関西、四国3か所での18歳～40歳代を対象とした講座の実施で、それぞれ5回連続の講座を実施する。第1回：オリエンテーション、レクチャーなど、第2回～第4回：道具の使い方、間伐など人工林の整備、雑木林の整備、竹林整備など、第5回：振り返りなど。

事業成果

今年度は新たに30名が参加し、森林・林業・農山村について理解するとともに、森林保全活動に参加する若者を増やすことができた。

事業をよく知る関係者の声

・今は、森林ボランティア活動に若い人がなかなか入ってこない。若者が、活動に関われるような入口をどんどん広げてほしい。(関西講座に関わるNPO関係者)

参加者の声

- ・できるようになったことはまだ限られているが、この一歩は大きな前進であると感じている。長年関わっている方々と同様に活動できるかについては自信が十分とは言えないが、自分のペースで継続的に関わっていきたい。(関西講座参加者)
- ・伐採後の木くずのにおい、一本一本違う木とふれあう安心感や間伐をしながら木と木のファシリテーションの役割をする使命感・責任感など林業の魅力を実感。(四国講座参加者)



講座オリエンテーション、レクチャー（東京都）



林内での間伐作業（京都府）



クヌギを植樹（徳島県）



竹林整備（香川県）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：100本
 除伐面積：1.5ha
 間伐面積：1.5ha

参加者数

県内：30人
 計：30人

樹種

クヌギ

都市の里山保全技術継承と里山資源活用推進

神奈川県横浜市



事業概要

都市の里山保全活動で産出する間伐材や伐木材を有効活用することで、持続的な里山保全及びその活動を推進する。今年度は、里山保全活動の結果として産出した間伐材や伐木等を活用し、以下の活動を行った。①間伐材等の生木を活用したグリーンウッドワーク (GWW) ワークショップ、②里山保全技術の継承のための研修会、③活用を意識した樹林地整備・里山保全活動の定例活動。

事業成果

GWWワークショップの定例化、ワークショップ参加者による自主的活動 (工房) の開始により、自立化が図られた。また、里山保全技術の研修会の開催を行い、定例活動への新規参加者に対して里山保全技術の継承を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

・今年度、ワークショップと工房 (自主活動) の同時開催、

「スプーンづくり (基礎)」の常設化等の工夫により、新規参加者やリピート参加が増加し、良い活動が実現できるようになったと思われる。一方、現状の参加者は多くが50代以上で、若い参加者をどのように増やすことができるのかが今後の課題である。(講師)

・間伐材がGWWで利用されることで、里山資源の新たな価値が見出せたと思う。(当会理事)

参加者の声

・GWWが里山保全につながっていることを初めて知ることができて良かった。(GWW参加者)

・ワークショップで教わったことを自分のペースで復習や作業ができるので良い機会だ。(GWWリピーター)

・講師の方から技術面で丁寧な指導を受けられたこと、班ごとの作業を通して情報共有や協力の大切さも学ぶことができた。(里山保全技術研修会参加者)



安全な伐倒のための追口・受口研修



チェーンソーワーク研修



スプーンづくり (グリーンウッドワーク)



我谷盆づくり (グリーンウッドワーク)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：5.4ha
 除伐面積：5.4ha
 間伐面積：5.4ha
 その他 (グリーンウッドワーク、研修ほか)：21回

参加者数

計：582人

森林保全グローバル人材育成ワークキャンプ

青森県鱒ヶ沢町、栃木県益子町、新潟県佐渡市、三重県名張市、大阪府富田林市、島根県美郷町、熊本県水俣市



事業概要

本事業は、国内の放置竹林・森林で、国内外の若者と地域住民が協働して整備活動を行い、森林保全意識の向上とグローバルな交流・連携の創出を図るものである。また、共同生活を通じた活動により、次世代の環境リーダー育成と地域の新たな担い手創出も期待される。主な活動内容は、①全国7県7か所で、間伐・草刈り・歩道づくり・植樹等の森林保全ワークキャンプ(合宿型ボランティア活動)、②成果報告会や事業のプロモーションイベントの開催、③「国際森林ボランティア開催地サミット」の開催。

事業成果

今年度の成果は、「国際森林ボランティア開催地サミット」の開催実施である。日本・インド・インドネシア・カンボジアの環境保全リーダーが各地域の活動事例や課題、ノウハウを共有し、国を越えた環境保全ネットワークの構築と相互の学び・刺激につながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・海外の若者たちが来日して、日本の環境保全活動に取り組むことに驚いた。そして彼らは明るく、元気でよく働く。日本の若者たちも負けないよう、環境保全活動に取り組む人が増えると良い。(栃木受入れ団体)
- ・リーダーが前半・後半に分けて参加する形となったが、長期間のプログラムでは参加者が集まりにくい傾向がある。(小木受入れ団体)

参加者の声

- ・木を切ることは環境に良くないと思っていたが、人の手入れによって森の生態系が維持されていることを初めて知った。(大阪参加者)
- ・国内の各地域で環境保全に取り組む人たちのネットワークはあるが、国際的なネットワークは今までなかったと思う。各国で環境保全に取り組む人々とつながることができ、貴重な機会となった。(カンボジアからの参加者)



受入れ団体主催のブナ植樹祭に参加・協力する環境保全リーダー(青森県)



地元ボランティア団体と環境保全リーダーが里山整備活動を実施(大阪府)



灯籠づくりを地域住民から学ぶ環境保全リーダー(島根県)



受入れ団体が行う伐採したタケを用いた炭づくりの工程を学ぶ環境保全リーダー(熊本県)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5 ha
 植付本数：150本
 下刈面積：1.3 ha
 除伐面積：1.0 ha
 間伐面積：2.5 ha

参加者数

県内：1人
 県外：84人
 計：85人

樹種

ブナ、イタヤカエデ、ミズナラ

能登の里山里海復興による人材育成

石川県珠洲市ほか



事業概要

本事業は、能登被災地の若者や被災者等を対象に、災害後の「生き抜く力」を育み、地域循環共生圏を担う人材の育成と持続可能な地域モデルの構築を目的として実施する。主な活動内容として、木質資源を活用し、自らエネルギー資源や住空間を創出できるよう、チェーンソー、刈払機、小型重機操作、林内作業車、作業道整備、製材の基本取り扱い研修に取り組む。

事業成果

林業未経験者の参加者が、様々な資格取得や技術を広く学び、林業の楽しさや重要性を学ぶことができた。山林を所有する参加者は、すぐに森林整備へ取り組む者も見られ、学びを実践へつなげる成果が生まれた。また、座学会場の活用を契機に、地元NPO・大学・行政との連携体制が構築されたほか、新聞やNHK等での報道により、被災地域への関心喚起と励ましにつながった。さらに、研修参加者間の

つながりも生まれ、今後の展開に向けた広がりが見られている。

事業をよく知る関係者の声

- ・能登震災後の復興に林業研修の重要性を感じる。若者の参加により林業従事者の増加を期待する。(50代男性)
- ・若い参加者が熱心に研修へ参加されていて感心した。継続して地域の山林整備に従事してほしい。元気と希望をもらった。(60代山主)

参加者の声

- ・山と向き合う楽しさと責任を実感した。道づくりや伐採の技術、そして、森の未来を考える視点が養われた。(参加者30代男性)
- ・森林整備では木材資源を森林から得ていることを学んだ。重機での道づくりが良い経験になった。(10代学生)
- ・林業研修を受けて、自分にできることから、山の保全に取り組もうと強く思った。(30代男性)



チェーンソー研修(伐倒・造材)



小型車両系建設機械運転業務の特別教育



可動式製材機による製材・ものづくり(小屋組み)研修



山・森の基礎知識森林生態学(公開講座)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1.0ha
除伐面積：0.8ha
間伐面積：1.2ha
人材育成：23日

参加者数

県内：260人
県外：20人
計：280人

青少年等参加型森づくり活動条件整備事業

山梨県北杜市



事業概要

山梨県北杜市清里高原学校寮地区には、森づくり活動のフィールドや指導体制が未整備であったため、学校寮地区内及び隣接地での活動は実施されていなかった。そこで、多様な学校・青少年団体が主体となって森づくり活動や森林学習を実施できるよう、関係機関と調整の上、共用フィールドの整備を行った。また、大人数受入に対応するための用具・教材の整備や指導者研修を実施し、受入体制の量的・質的充実を図った。

事業成果

多くの参加者の受け入れに対応し、安全に間伐体験と多様なテーマの森林学習が行えるようにゾーニングと環境整備を行った。併せて、参加型・探求型プログラムへの改良、指導者養成、用具・教材等の整備を行うことで、受入体制を量・質ともに充実させることができた。その結果、新たに一般向けの活動を開始することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動フィールドのゾーニングと散策路を含めた環境整備を行うことで、学校等の団体が間伐体験と森林学習を同時並行で安全に行えるような環境が整ってきた。児童等の主体性を引き出せるようなプログラムの改良・指導者のスキルアップもなされている。今後、さらに児童等の多様な興味・関心を引き出し、学びを深めるように指導者間のスキルアップが期待される。(外部講師)

参加者の声

- ・木を倒すコツや木の年輪の数、木を運び出す苦勞が分かった。今回の活動で、林業の仕事について知り、少し興味を持てたので、興味のない人もぜひ楽しんでほしい。(間伐体験の参加児童)
- ・プログラムを経験して、児童の新たな反応が見られ、活動の意義を感じた。仕組み化された活動は学校でも導入しやすく、初めの一步を踏み出しやすい。(小学校校長)



手鋸で間伐体験 (小学校森林体験)



間伐材を利用して橋づくり (小学校森林体験)



除伐・散策路等の整備 (環境整備活動)



間伐デモンストレーション (林間学校実地踏査・見学会)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.7ha
 除伐面積：0.7ha
 間伐面積：0.7ha
 散策路整備：500m
 その他：森林学習、指導者研修ほか

参加者数

県内：140人
 県外：1,284人
 計：1,424人

間伐材を利用した書道における固形墨の開発

愛知県西尾市



事業概要

全国的に広がる放置竹林問題を解決しつつ、SDGsの視座から芸術科書道で扱う固形墨を開発し、新たな環境教育・書道教育について考える。主な活動は以下のとおり。①タケの伐採方法を学ぶ、②タケの伐採活動、③竹炭づくり、④固形墨づくりについて墨匠から学ぶ、⑤墨の製品化に向けた取り組み、⑥大学生に向けた佐久島での自然体験講座。

事業成果

今年度は、放置竹林が課題となる佐久島において、間伐活動が前年度比で約2倍に拡大した。会員の技能向上に加え、佐久島振興課・島を美しくする会の協力が実施拡大につながった。また、昨年度はオンライン会議で対応いただいた墨匠から直接指導を受け、単なる墨づくりにとどまらず、竹炭を活用した墨づくりへと発展した。さらに、商品化も視野に入る段階まで進展している。

事業をよく知る関係者の声

- ・これまで竹を用いた墨づくりの経験はあったが、今回のような微粒子化による製作は初めてであり、整形まで完了できたことは大きな成果である。今後は乾燥工程を経て、仕上がりや使用性の確認が期待される。(墨匠)
- ・色差計の購入により目標とする墨色が明確になり、活動が具体化した。(市役所職員)
- ・間伐作業や竹炭をつくることはできるようになった。機材も購入できて活動しやすくなった。(会員)

参加者の声

- ・初めて間伐の大切さを知った。環境問題は身近な課題であり、タケの利活用を考えることが、山とともに暮らす島の人たちの暮らしを守ることにつながることを理解した。(大学生男子)
- ・この竹墨を家で再挑戦してつくり、島で一つの新しいモノづくりができないか検討してみたい。(島民)



タケの伐採



伐採したタケを適当な長さに切断



竹炭を使った竹墨づくり



竹明かりを制作

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：0.13ha
 その他：竹炭焼成、竹墨づくり、国際フォーラム参加

参加者数

計：約170人

次世代と共につくる里山と菊炭の未来2024

大阪府能勢町、池田市



事業概要

日本の茶の湯文化だけでなく里山保全においても重要な地域固有の製炭業（菊炭）が放置林や獣害で衰退している。この課題解決に次世代と共に取り組み、次世代が継続的に関わる持続可能な里山を目指す。主な活動は、①地元や近隣の高校生を対象の菊炭窯の見学や里山見学・管理作業体験等、②近隣市小学校への里山出前講座やオンライン授業、③女性対象の講習会、④間伐材を使った木工教室。

事業成果

小学校対象の「菊炭と里山づくり」オンライン授業は9校となり、さらに植樹会へも多数参加しているほか、昨年度参加した児童数名も継続参加している。地元高校生へは出前講座や植樹活動を行い、日本の山林活動を学んだ。女性を対象とした里山作業安全講習会では昨年の受講者との交流時間を設け、先輩受講者の生の声を聴くことで新規受講者の疑問の解消や安心につながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・海外研修に先立ち、地元で菊炭を軸に環境との関わりを学んだことは、海外での環境学習を深める基盤となった。（地元高校教員）
- ・活動には関心がある地域と密着し、様々な人々が関わっている。今後も続けていくべき活動だ。（コンサルティング関連者）

参加者の声

- ・子どもの希望により植樹会に2回目の参加となった。貴重な体験だ。（植樹会参加の保護者）
- ・昨年度の刈払機講習会の受講内容が実践に活かされ、「〇〇すると危険がある」との理解が深まったことで、安心して作業できている。（交流会参加の前年度受講者）
- ・刈払機の使用ポイントを理解し、バッテリー式機材の購入検討にも役立ったことで、不安も軽減された。（女性対象の刈払機講習会参加者）



クヌギを植樹（菊炭と里山を未来につなぐ植樹会）



菊炭と里山学習、ドングリのポット苗づくり（出前授業）



女性のための刈払機講習会（里山作業安全講習会）



近隣市小学校9校の児童教師を結ぶオンライン授業現場の様子（菊炭と里山づくり）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：230本
 樹勢回復：80本
 除伐面積：0.2ha
 その他：里山作業安全講習会、
 近隣市小学校への出前授業、
 木工クラフトほか

参加者数

府内：1,130人
 計：1,130人

樹種

クヌギ

里山活性化と次世代リーダー育成事業

大阪府貝塚市



事業概要

次世代を担う学生（近畿大学ゼミ生、大阪ECO動物海洋専門学校1、2年生）が、活動を通じて里山に関心を持ち、課題を認識して、森づくりのリーダーとなるように取り組む。主な活動は、休耕田でのウバメガシ苗木植栽、浜辺で海藻を集めて苗木の肥料として活用。除間伐体験活動も地元住民やボランティアと一緒に実施する。除間伐した空間には、育てた苗木を植栽し、複層林化を目指す。

事業成果

今年度は林業従事者のチェーンソー作業の見学も取り入れた。参加者の中には森林作業に関心を持つ学生もあり、就

職先の一つとして捉える貴重な機会となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・村は、高齢化・林業の衰退・間伐遅れ等、極めて厳しい状況にある。今回の取り組みは、これまでにない大きな希望である。若者の声が響くだけでも村は元気になる。

参加者の声

- ・木を伐ることは自然破壊しているとの質問もあったが、真っ黒な森林が間伐により日光が入るのを実際に見て感動していた。
- ・里山に関心をもった。



ウバメガシを植樹



林業従事者による活動空間づくり・林内整備の説明



間伐体験



間伐した木の輪切り作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.03ha

植付本数：40本

間伐面積：0.03ha

参加者数

府内：119人

計：119人

樹種

ウバメガシ

多国籍で共に取組むグリーンリーダーの育成

兵庫県神戸市



事業概要

森林・里山の継続的な保全に向け、学生・留学生等の若者を、自然や現場から学び地域・社会課題を捉え、その解決に向けて行動できるグリーンリーダーとして発掘・育成することが目的ある。活動内容は、①広葉樹林・竹林エリアの間伐整備、②植樹、苗木の手入れ、下草刈り、③里山保全、④間伐材の有効活用、⑤地域住民・外国人との相互協力・コミュニケーション、⑥若者のチャレンジ体験活動。

事業成果

竹林整備エリアを2か所追加し、様々な年代の学生・若者に対して、ワークショップ、インターンシップを実施できた。「親子ネイチャースクール」は参加者が増加した。そのほか、学生の長期インターンシップの受入れ、200名超のSDGs探究学習の実施、SDGsパートナー企業等との連携強化、各種メディアでの発信を通じ、育成プログラムの充実と参加層の拡大、活動の認知向上を図った。

事業をよく知る関係者の声

- Peace & Natureは、地域の農家の皆さまから厚い信頼を得ており、地域に根ざした活動を展開している。その活動は、山村エリアにおいて多国籍のメンバーが学生を育成しながら里山保全を継続的に行う、独自性と意義のある取り組みである。また、酒造会社としては、良質な酒米の安定確保と環境に配慮した酒造りに取り組み、地域とともに歩む方針である。(協賛企業社長)

参加者の声

- ピースサミットで海外参加者や、ウクライナの方のスピーチを聞き、自分自身の考え方に新しい視点が加わり、大きな学びとなった。(短期インターンシップ学生)
- インターンシップで「トライ&エラー」という考え方を学び、環境保全活動に携わることで、地域を支える仕事への理解を深めた。人を支える仕事に就きたいという思いを抱くようになった。(長期インターンシップ学生)



オリーブの木を7本植樹 (SDGs探究学習)



タケの伐採 (SDGsサマーワークショップ)



タケでぼうぎづくり (親子ネイチャースクール)



伐採した木を玉切りして出荷 (里山保全活動)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.015ha
 植付本数：7本
 植勢回復：1.5ha
 下刈面積：2.1ha
 除伐面積：1.4ha
 間伐面積：1.5ha
 森林資源活用：竹パウダー、竹筒、竹炭ほか

参加者数

県内：1,096人
 県外：191人
 計：1,287人

樹種

オリーブ

植樹活動

島根県益田市



事業概要

木の魅力を知ること、将来的に環境を愛し、育てる人材を増やすことが目的である。活動内容は以下のとおり。①植樹活動、②木の大切さ、木の役割に関するクイズを実施。

事業成果

保育園では初めての植樹活動であったが、来年度も実施したいとの要望が寄せられた。木の大切さを知らない子どもも多かったが、クイズ形式で分かりやすく伝えることで理解を深めることができた。また、地域の方々と協力して活動を行ったことで、地域と子どもたちとのつながりづくりにもつながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・造園の方から、穴の大きさや植え方によって植物が枯れたり根腐れしたりすることがあると伺った。今後も自己流ではなく、指導を受けながら取り組みたい。また、多くの地域の子どもたちが参加できるように、次回はチラシ等で周知し、参加者の拡大を図りたい。

参加者の声

- ・木を初めて植えた。
- ・木の大切さや木の名前などをもっといろいろな種類を教えてください。
- ・木をもっと植えてみたい。



木の大切さや役割に関するクイズを実施



大苗を植樹場所（穴）へ運ぶ子どもたち



子どもたちが丁寧に土をかぶせている様子



植樹した木の横に看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：9本
掘削箇所：9か所

参加者数

県内：11人
計：11人

樹種

モチノキ、シラカシ、アラカシ、ブルーベリー、サクラほか

森づくりを目指す若きリーダー養成事業

高知県香南市、香美市、高知市、南国市、本山町、愛媛県西予市ほか



事業概要

大学生を中心とした森づくりに関心を持つ若者が森林や里山の保全活動などへの参加を通じて、将来の森づくりを担うリーダーとして育つことを目指す。主な活動は次のとおり。①人工林の除間伐や里山、竹林の整備作業の実践研修、県内外の森づくりや地域づくりの取り組み事例の視察・体験研修などを実施、②他団体や民間企業と連携してツーハウスづくりや里山整備の実践活動などを実施。

事業成果

研修事業に継続的に参加してきた研修生の中には、森づくり活動に熱意を持って、こうち森林救援隊の通常活動に積極的に参加したり、自ら子どもたちを対象にした森林教育イベントを企画するなど、森づくりリーダーとして活躍できる人材が育ってきた。また、研修事業を進める中で、県内で既に森づくりリーダーとして活躍している人材や他のボランティア活動団体との連携が強化された。

事業をよく知る関係者の声

- ・若者が森づくりに参加する動機づくりと裾野の広がりができてきた。(事業協力者)
- ・山に興味がある人が、具体的な山の情報にアクセスできる窓口と筋道を提供できている。(事業協力者)
- ・活動を継続する力は大変重要であり、林業に関心を持つ学生や新規就業者の受け皿としての機能は、担い手不足の改善につながる事が期待される。(研修事業の講師)

参加者の声

- ・チェーンソー等を使った森林整備作業の実践体験ができた。
- ・森林や林業に関わる人たちとのつながりを広げることができた。
- ・普段の生活の中では林業や森林に関わる機会が限られる中、森づくりに関する知識を学べる貴重な機会である。
- ・興味はあるが、忙しくてなかなか参加できなかった。



人工林の整備研修 (高知市)



竹林整備研修 (南国市)



タケを利用した流しそうめん (アジロ山自然の森ようちえん)



土壁塗りワークショップ研修 (本山町)

実績とりまとめ

作業内容

〈主な研修内容〉

人工林の除間伐研修：6日
竹林整備研修：5日
里山整備作業の実践研修：30日

森のようちえん：9日
合宿研修：2回

参加者数

県内：169人
計：169人